

障害者福祉課との連携

東京都墨田区ひきふね図書館
山内 薫

はじめに

昨年報告しましたように、伊藤忠記念財団からお借りしたiPadを毎月1回の福祉作業所での貸出の折に持って行き、マルチメディアDAISY図書を見ていただいています。

マルチメディアDAISY図書については機会あるごとに紹介したり、展示したりしているにもかかわらず、なかなか利用に結びつかないのが現状です。

とくに特別支援学級の先生方にPRしてみましたが、先生方はとても忙しいようで、興味を示していただける方はあまりいませんでした。そんな中で墨田区の障害者福祉課との連携で取り組んだ2つの事例を紹介します。

児童通所支援事業所へのPR活動

2015年11月末、墨田区児童通所支援事業所連絡会という会合に参加して、図書館の障害者サービス事業の情報提供をしました。区内には児童福祉法に基づく、障害のある未就学の子どもを対象とした「児童発達支援事業所」が

8か所、小学校から高校までの学校に通っている障害児が、放課後や学校が休みの土、日、祝日、夏休みや冬休みなどに利用する通所施設である「放課後等デイサービス事業所」が18か所あります。

これらの事業所が集まって、支援方法の共有や支援ネットワークの形成を図る今年度2回目の連絡会に参加させてもらい、図書館サービス、とくにマルチメディアDAISY図書について紹介を行いました。

これらの事業所は開設されてまだ日も浅く、今年開設されたところも少なくありません。規模もそれぞれで、定員60名という事業所もいくつかありますが、ほとんどは定員5人から10人という規模で、重症心身障害児以外の身体障害、知的障害、精神障害、発達障害児などを対象としているところがほとんどです。

当日は図書館の障害者サービス利用案内、伊藤忠記念財団からいただいた、わいわい文庫に取り上げられた本の表

紙が並んでいる2013年から2015年までのポスターのカラーコピー、日本障害者リハビリテーション協会発行の『デイジー活用事例集』（2013年）を袋詰めして、参加した12ほどの事業所の出席者に配布し、実際にiPadでいくつかのマルチメディアDAISY図書を見てもらいました。

参加事業所の中に定員5名ながら放課後等デイサービス事業所では唯一医療ケアも必要とされる重症心身障害児を受け入れている事業所があり、つぎのような報告をしました。

「開所して丸3年、定員は5名だが7名まで受け入れており、平均利用率が5名を下回ることがない。活動としては、23名の方に協力してもらって、すみだトリフォニーホールのコンサートに参加したり、北千住の公園に行ったりした。今年は社会福祉の勉強でイギリスに留学していた学生と一緒にイギリスの手遊び歌などもやった。」

実はこの事業所の運営をしていて連絡会に出席していたSさんは、墨田区役所を途中で退職した後に請われてこの事業に参画したということですが、区役所の職員時代に区内の図書館に勤務したこともある方で、紹介したマルチメディアDAISY図書に非常に関心を示してくださいました。

後述のスマイル・フェスティバルでSさんにお会いした折に、マルチメ

ディアDAISY図書をぜひ利用したい旨の話がありましたので、近々マルチメディアDAISY図書を持って直接この事業所を訪問したいと思っています。

「あなたの知らない図書館の世界」

また12月5日（土）には、12月の障害者週間にあわせて、障害者福祉課と墨田区障害者団体連合会が共催して開かれた「スマイル・フェスティバル」という催しに、図書館も参加しました。



スマイル・フェスティバルの会場



「あなたの知らない図書館の世界」

ひきふね図書館近くにある曳舟文化センターという会場の大会議室で、午前10時から午後3時までさまざまなワークショップが実施されました。点字用紙の端紙で作る「まきまきエコク

ラフトベル」作りのコーナー、折り紙を使った「おサルの年賀はがき」作成コーナー、「手話カルタ」で遊ぼうコーナーなどなどに混じって、「あなたの知らない図書館の世界」というコーナーを出させてもらいました。

A 3二つ折りA 4で4ページの「スマイル・フェスティバル」の案内チラシ（すべての漢字にふりがな付き）には、上記のタイトルとひきふね図書館の名前のほか、「文字や音声・画像を同時に再生できるデジタル録音図書（マルチメディアDAISY図書）や拡大写本など、障害のある方でも読みやすい本の紹介をします」という文を載せました。

机4つを口の字に並べて、点字図書、拡大写本、布の絵本、LLブックなどを置きました。その机と並行して2つの机を並べ、そこをマルチメディアDAISY図書体験コーナーとして、パソコンとiPadを置き、マルチメディアDAISY図書が見られるようにしました。



iPadでマルチメディアDAISY図書



『コッケモーモー!』を読む

何とか人を呼び込みたいと考えて、下記のようなPRチラシを作成して来場者に配布しました。

「本を読むのが苦手な人、集まれ！
ーマルチメディアデイジー図書体験会」

本を読むのが苦手、本を読むのがつらい、漢字が苦手、活字を見ると頭が痛くなる、指で文字をなぞらないとうまく読めない、「めぐるしい」をつい「めぐるましい」と読んでしまう……。そんな文字を読むのが苦手な方に朗報があります。マルチメディアデイジー図書はパソコンやiPadの画面に文字が出て、その文字を読んだ音声が出てくる本です。

アルファベットを文字として使っているアメリカなどでは、こうした読むのが苦手な人が全人口の一割以上いると言われています。とくに見ることに障害があったり、知能に遅れがあったりする訳ではないのにうまく読めない

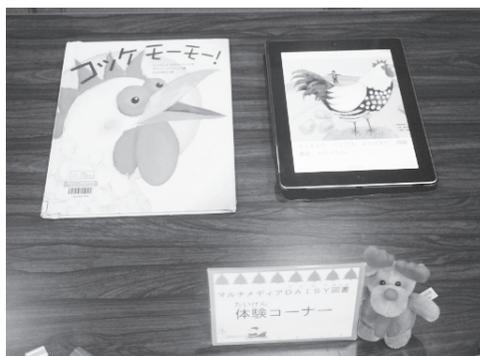
のです。俳優のトム・クルーズはディスレクシアという読み書き障害のために台本を自分で読んで覚えることができないので、誰かに録音してもらったり、その場で読んでもらってセリフを憶えていると言います。日本にもこうした障害のある子どもたちが2.4%（文部科学省）～8%（筑波大学の教授）もいるのです。その子どもに読む能力や理解する力がないのではなく、生まれつきの障害のために読むのが難しいという訳です。もしそんなお子さんがいたなら是非マルチメディアデイジー図書を読んでみて下さい。この本なら苦勞せずに読むことができるという子どもがたくさんいるのではないかと思います。

また養護学校などで文字を読む練習を余りしなかったために本を読むのが苦手だったり、漢字がうまく読めないという人にとってもマルチメディアデイジー図書は楽に読める本になるでしょう。

図書館には200冊ほどのマルチメディアデイジー図書がありますので、是非ご利用下さい。（すべての漢字とiPadにはルビをふりました）

チラシの配布と同時にいくつかのマルチメディアDAISY図書のCD-Rを展示しましたが、分冊していただいたマ

ルチメディアDAISY図書の原本も一緒に展示して、マルチメディアDAISY図書を原本と一緒に読めるように配慮しました。

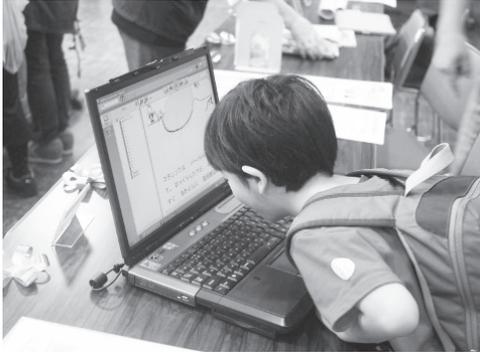


マルチメディアDAISY図書体験コーナー



マルチメディアDAISY図書と原本

実際に体験して下さった方は10名余でしたが、中には弱視なのか画面の文字に目を近づけてみていた子どもや、ストレッチャーに寝たままのかなり重い障害の子どもなども見てくださいました。



『おばけのバーバパパ』を目を近づけて読む



ストレッチャーで来場した子どもがマルチメディアDAISY図書を見る

広い会場で人の行き来する場所でしたので、落ち着いて読書するという環境になく、もう少し集中して読める環境を用意すれば良かったと反省しています。体験者やチラシを読んだ方の中からマルチメディアDAISY図書を読みたいという人が一人でも出てくることを期待しています。

また、障害者週間にあわせて、ひきふね図書館のコーナーでも障害者サービス用資料の展示を12月いっぱい行い、そこでもマルチメディアDAISY図書を展示しました。一人でも多くの読むことが苦手な子どもが、マルチメディアDAISY図書に触れて読書の楽しみを感じてくれたらと思います。